



取扱説明書

USER MANUAL

ご使用前に必ず本取扱説明書をお読み下さい。
読んだ後は大切に保管して下さい。



SINCLAIR
RESEARCH

内容物をご確認ください

A-bike Plus 本体 × 1
A-bike Plus 専用空気ポンプ × 1
A-bike Plus 専用キャリーバッグ × 1
A-bike Plus 専用工具キット × 1
取扱説明書 × 1
簡易取扱説明書(クイックスタート) × 1
製品保証書 × 1

目次

安全上の注意	1
各部の名称	5
A-bikeの組み立て方	7
A-bikeの折りたたみ方	7
空気の入れ方	17
サドル位置の調整方法	18
日常点検(乗車前の確認事項)	19
お手入れと点検・調整	21
洗浄について	21
注油	22
ブレーキの調整方法	24
ブレーキバンドの交換方法	27
パンクの修理方法	
車輪の外し方	31
タイヤ・チューブの交換方法	34
製品仕様	36

はじめに

この度は、当社の製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

A-bike Plusは短い距離の走行や、収納性、運搬性を考えて開発された小径車輪の特殊自転車です。A-bike Plusを安全快適にご使用して頂く為に、適切なお手入れと定期的な点検・調整をして頂く必要があります。

この説明書ではA-bike Plusの正しい取り扱い方と、適切な点検・調整方法についての説明をしています。この取扱説明書を必ず読み、各項目で説明されている指示に従って下さい。A-bike Plusの特性と正しい操作方法をよく理解し、安全な走行をお楽しみください。

警告表示

警告表示は危険度・重要度の程度に応じて次の区分に表示しています。これらの注意事項を守らないと事故につながったりケガをしたり、自転車が破損するなどの恐れがあります。

表示の意味

警告 この表示の欄は、取扱を誤った場合、使用者が「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

注意 この表示の欄は、取扱を誤った場合、使用者が「障害を負ったり、物的損害を負う可能性が想定される」内容です。

禁止 この表示の欄は、「安全上してはいけない危険行為および保証範囲外の行為を表す」内容です。

強制 この表示の欄は、「使用者に必ず実行していただく内容」です。

警告

- 安全・快適にご使用いただくために、必ずこの「取扱説明書」をよく読み、理解してからご使用ください。
- 誤った取り扱いや調整は事故につながる危険があります。警告・注意・禁止・強制事項を必ずお守りください。
- 乗る前の日常点検を必ず実施してください。
- 故障、修理などで部品の交換が必要な場合は、必ず純正品をお使いください。
- この自転車を他人に譲る場合は、この「取扱説明書」を一緒にお渡しください。
- 取り扱いがわからないときは、お買い求めのお店にご相談ください。

正しい使用条件

【標準常用速度】 5～10km/h **警告**: スピードはいつもひかえめに

【標準適用体格】 ● 身長 160cm～193cm (サドル高さ最大91.5cm 最小:80cm)

警告: 足が地面につかない方は乗らないでください。

- ブレーキレバーを余裕をもってにぎることができること。

【乗員体重】 85kgまで ※ 乗員体重は、特殊自転車の性能と安全を確保する上で設定された最大体重です。

【キャリアの取付】 この特殊自転車にはキャリアの取付はできません。

【乗せられる荷物の大きさと重さ】 **禁止** 積載禁止

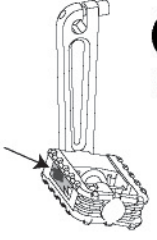
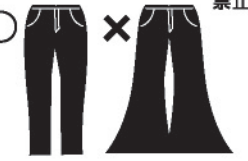
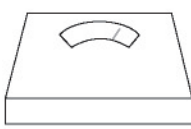
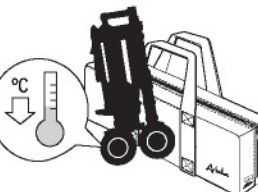
※ 自転車用幼児座席は取付禁止

警告 (危険です。危ない乗り方をしないでください。)

お使いになる人や他人への危害、財産の損害と自転車ごとがこわれることを未然に防ぐために、必ずお守りください。



⚠ 警告 (危険です。危ない乗り方をしないでください。)

 ※ ひび割れ ※ まがり ※ 変形 パンクや故障など異常があるときは乗らない	禁止  必ず靴をはいて乗り、サンダルなどのかかとの高い靴や滑りやすい靴をはいて乗らない	強制  交通ルールを必ず守る
強制  リフレクタの汚れは常に拭き取り、破損した場合は取り替える。	禁止  マフラーやスノの長いスカートやズボンなどを着衣しての乗車禁止。	強制  初回点検・定期点検は必ず実施する
193cm ↑ 160cm  適用身長 最小160cm～最大193cm	最大重量  乗員重量:85kgまで (荷物を含む)	禁止  お酒を飲んだとき、薬物を服用しているときは乗らない
 キャリアバックに入れる時はブレーキを冷ましてから入れる	悪路走行危険 禁止  ぬかり道、雪道、路面凍結時は走行禁止。	禁止  歩行者に危害を与える恐れのある突出物の装着禁止。

⚠ 警告 (危険です。必ず守ってください。)

- ❗ 走行するとき**
強制
- ・タイヤに十分空気を入ってから乗る。(適正空気圧:90psi)
(空気圧が低いとはやくタイヤが減り、パンクもしやすくペダリングが重くなります)
 - ・体を後ろに反らして乗らない。(バランスが不安定になり危険です。)
(少し前傾姿勢で乗ってください)
- ❗ ブレーキをかけるとき**
強制
- ・いつでもブレーキレバーを握れるようにして乗る。
 - ・ブレーキは先に後ブレーキをかけてから前後ともブレーキをかける。
(片方だけかけるとスリップして危険です)
 - ・急ブレーキをかけない。(スリップや転倒の危険があります。)
(いつでも前方に注意してスピードを控えめにしてください)
 - ・雨天時はブレーキがききにくく、スリップしやすいので、ゆっくり走行する。

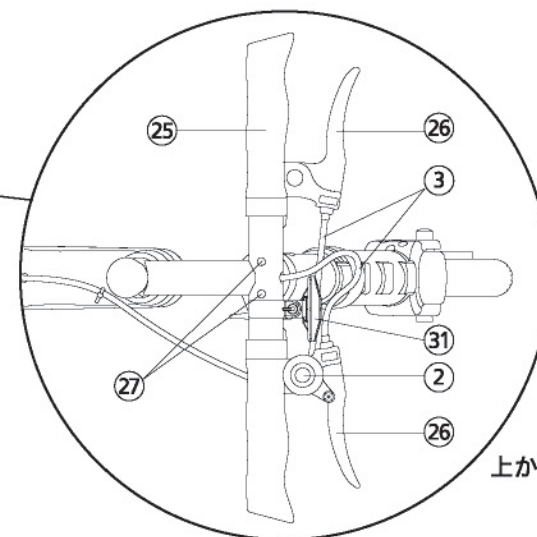
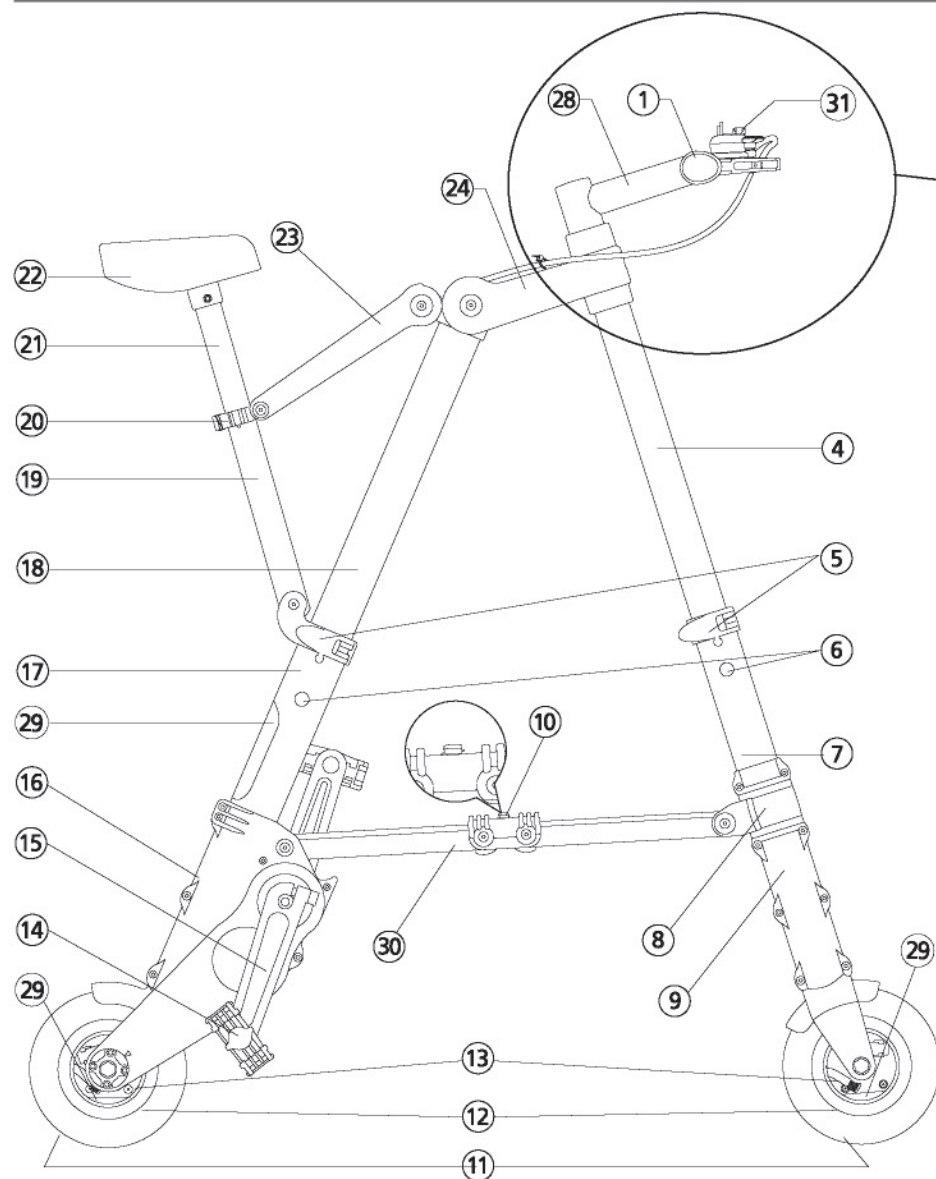
乗用中にブレーキバンドが非常に熱くなる恐れがあります。キャリアバックに入れる時はブレーキバンドを冷ましてから入れて下さい。

ブレーキを連続10秒間使用を続けるとブレーキフェード(※)が起こる可能性があります。ブレーキは間隔を開けて使用し、長い坂道を下る時は左右のブレーキを交互に使用し、発熱をおさえるようにしてください。

※ ブレーキフェードとは自転車のブレーキを連続で使用し続けた結果、制動が失われ、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

- ❗ カーブを曲がるときは**
強制
- ・カーブに入る前に速度を十分に落とし、ブレーキ操作をせずに曲がれる速度で安全走行をする。
 - ・カーブで急ブレーキをかけない。
(横滑りして転倒する危険があります)
 - ・カーブを曲がっている間は、ペダリングを止める。
ペダルが路面に当たる可能性があり危険です。
- ❗ 衝突や転倒したときは**
強制
- ・必ず点検する。
 - ・異常を発見したら使用せずにお店に相談する。
- ❗ 各回転部分には**
強制
- ・手や足を入れない。子供がそばにいるときは、特に注意する。
- ❗ サビを防止し、長持ちさせるには**
強制
- ・定期的に手入れをする。
- ❗ 走行目的以外の使用**
禁止
- ・踏み台など走行目的以外に使わない。
(転倒してけがをする可能性があります。)

各部の名称



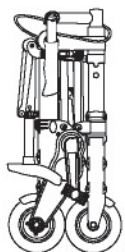
上から見た図

- | | |
|--------------------|----------------|
| ① ハンドルバー | ⑬ クランク (両側) |
| ② ベル | ⑭ クロスフレーム固定ボタン |
| ③ ブレーキワイヤ | ⑮ クロスフレーム |
| ④ フロントチューブ | ⑯ フロントリフレクタ |
| ⑤ クイックレバー | |
| ⑥ チューブ固定ボタン (両側4つ) | |
| ⑦ フロントダウンチューブ | |
| ⑧ 下部ステアリングジョイント | |
| ⑨ フロントフォーク | |
| ⑩ クロスフレーム固定ボタン | |
| ⑪ タイヤ | |
| ⑫ ブレーキバンド | |
| ⑬ ホイールハブ | |
| ⑭ ペダル (両側) | |
| ⑮ クランク (両側) | |
| ⑯ クランクケース | |
| ⑰ リアダウンチューブ | |
| ⑱ リアチューブ | |
| ⑲ シートチューブ | |
| ⑳ クイックシートピン | |
| ㉑ シートピラー | |
| ㉒ サドル | |
| ㉓ シートステイ | |
| ㉔ 上部ステアリングジョイント | |
| ㉕ グリップ | |
| ㉖ ブレーキレバー | |
| ㉗ ハンドルバー固定ボタン | |
| ㉘ ハンドルステム | |
| ㉙ リフレクタ | |
| ㉚ クロスフレーム | |
| ㉛ フロントリフレクタ | |

A-bike Plus の組み立て方

⚠ 警告

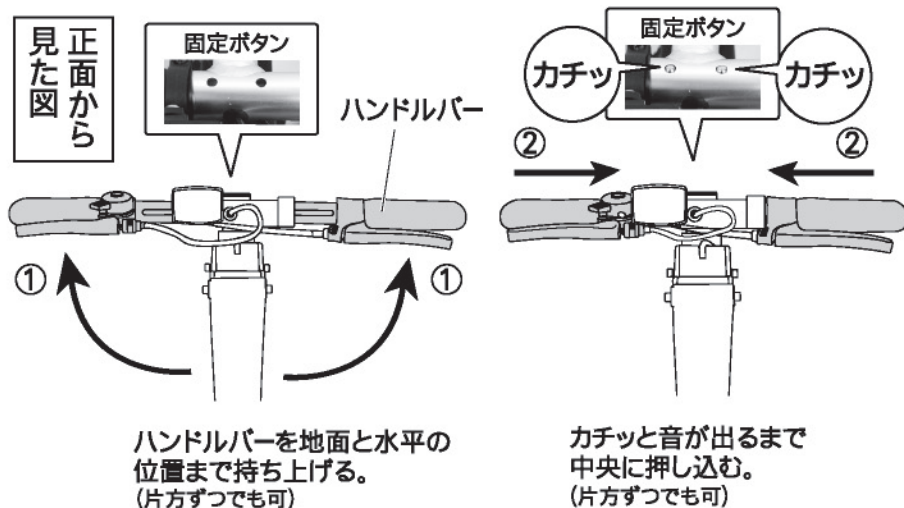
- A-bike Plusの取り扱い方や調整方法を間違えると事故や怪我につながる恐れがあります。
- 組み立て・折りたたみは正しい順序に従ってください。
(順序を間違えると自転車が壊れたりする可能性があります。)
- 自転車に乗りなれている場合でも、A-bike Plusをご使用になる前にこの説明書を読み、よく理解してからお乗り下さい。
- 必ずサドルが自分にあった高さでしっかり固定されている事を確認して下さい。
- 乗る前の日常点検(毎回の乗車直前の確認)を実施して下さい。



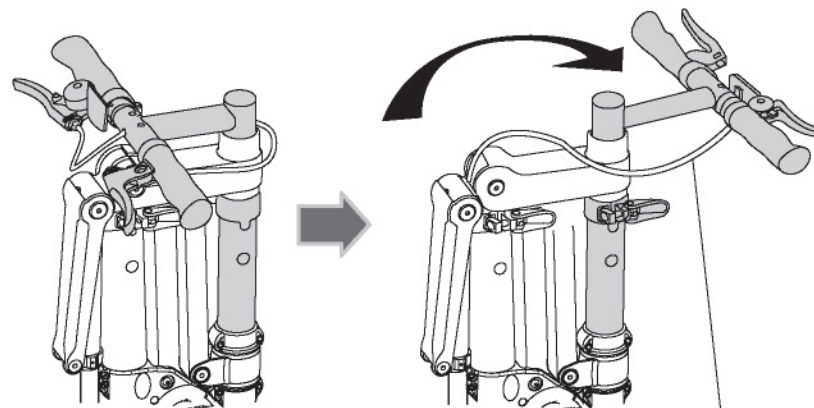
組み立て・折りたたみは水平な場所で行ってください。

折りたたまれた状態

1. ハンドルバーを固定する



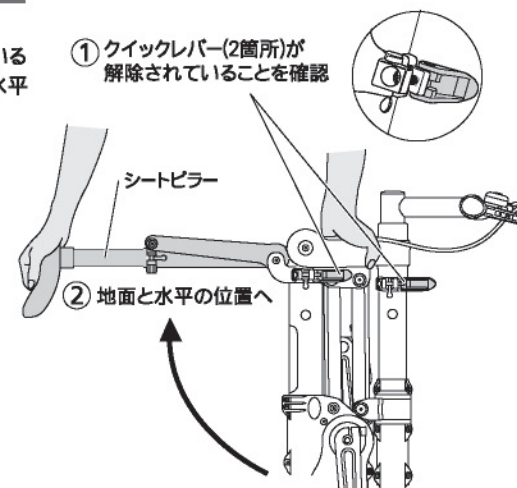
2. ハンドルバーを矢印の方向(水平)に180°回転させる ※ 逆に回したり、回しすぎたりするとハンドル破損の原因になります。



ブレーキワイヤが回っていない方向へ回します。

3. シートピラーを持ち上げる

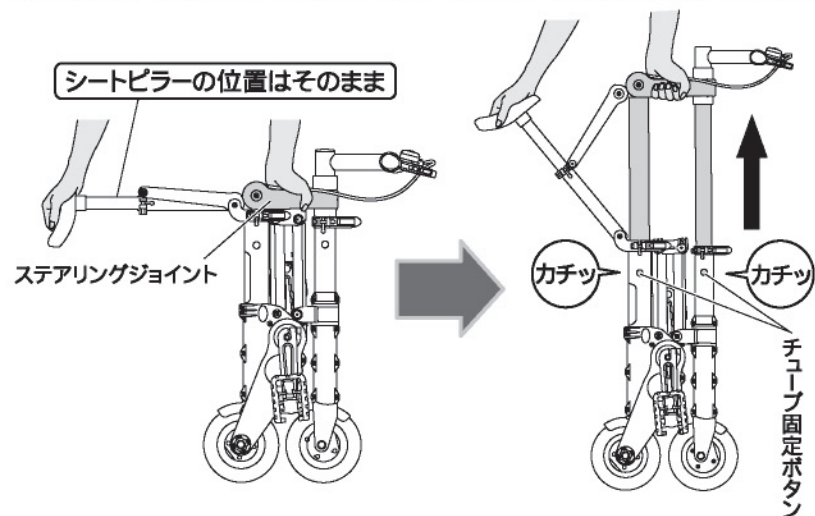
図のようにクイックレバーが解除されていることを確認し①、シートピラーを地面と水平の位置まで持ち上げます。②



A-bike Plus の組み立て方 (続き)

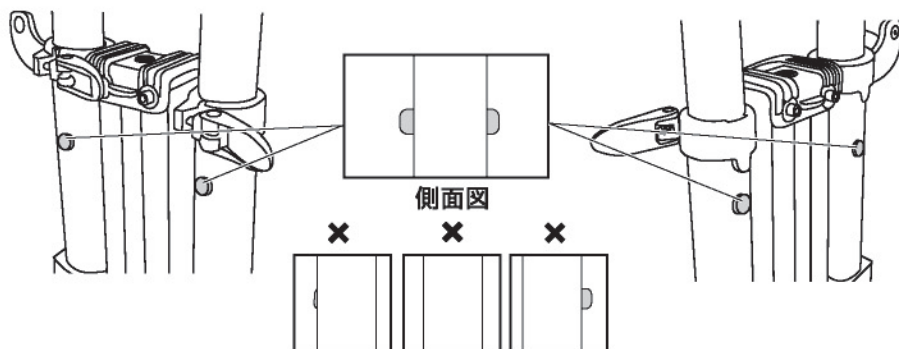
4. ステアリングジョイントを引き上げる

ステアリングジョイントを掴み、(上下に振りながら) 上に引き上げます。この時チューブ固定ボタン4箇所がカチッと音がして穴から出る位置まで引き上げてください。



両側確認

チューブ固定ボタンが4箇所(両側)の穴から出ていることを確認してください。

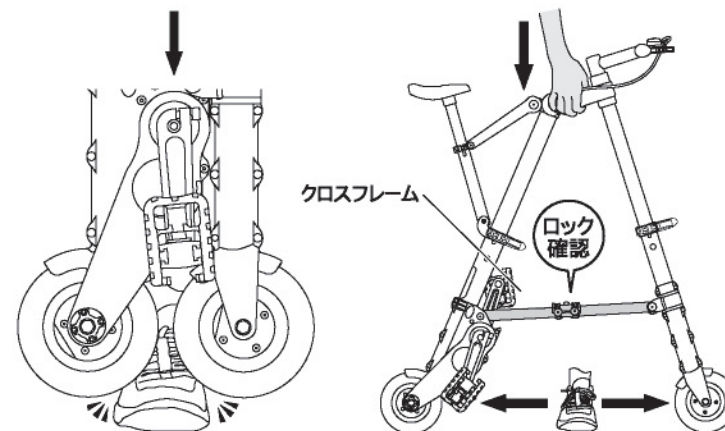


※ 出ていない場合は4箇所全てのチューブ固定ボタンが穴から出るまでステアリングジョイントを引き上げてください。

5. クロスフレームを広げる

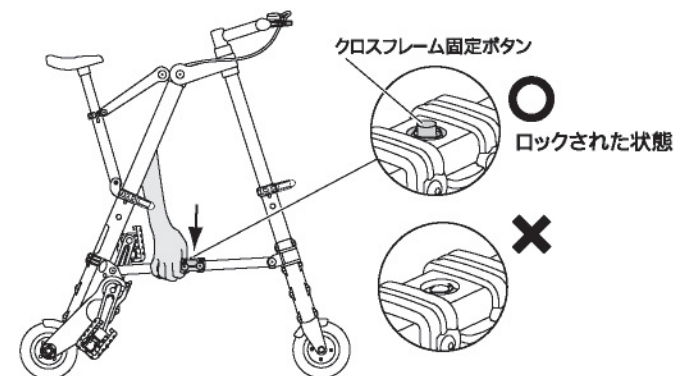
図のように片足の甲の上に、両タイヤを軽く落とすように乗せるとクロスフレームが開きます。

完全に開くまで押し込むとクロスフレームがロックされます。



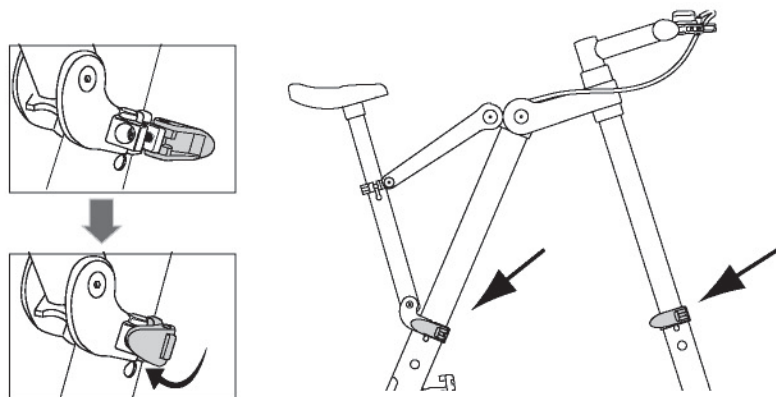
6. クロスフレームが固定されたか確認する

固定されるとクロスフレーム固定ボタンが上に上がった状態になります。固定されていない場合、クロスフレームの中心をロックされるまで下げます。



A-bike Plus の組み立て方

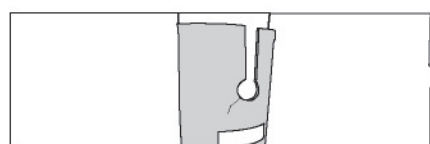
7. クイックレバーをロックする (2箇所)



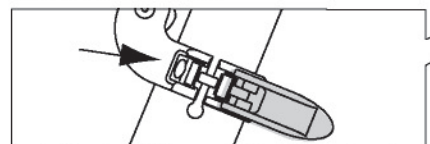
⚠ 警告

A-bike Plusはクイックレバーをしっかり締めた状態で乗る設計になっています。

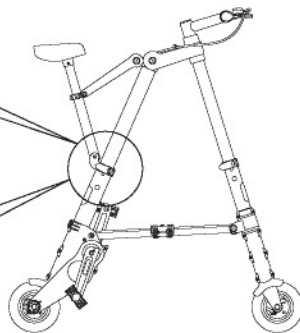
クイックレバー部分は、使い続けていくうちに緩んできますので、乗車前に確認して緩んでいる場合には、付属のプラスドライバーで定期的につく締めてください。
(クイックレバーの締め具合は、少しきついと思うくらいが適当です。)



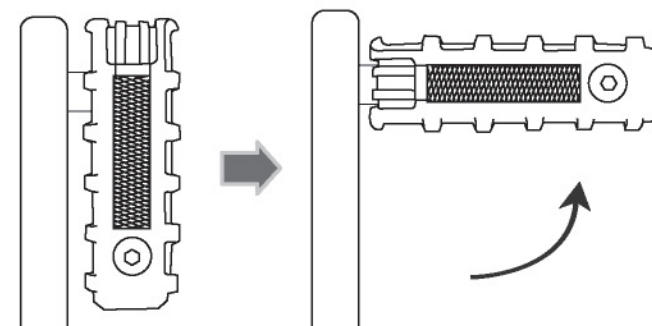
クイックレバーの締めが甘いと、フレームにヒビが入り、割れる可能性があります。



クイックレバーが緩んでいる場合、付属のプラスドライバーでつく締めてください。

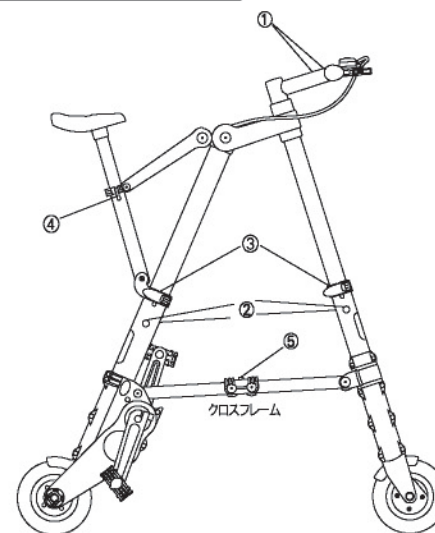


8. 両側のペダルを広げる



※指を挟まないように注意してください。

9. 各部の確認をする



A-bike Plus開閉時 (および走行時) に非常に重要な部分ですので、必ず目視および手で触って緩みがないかご確認ください。

- ① ハンドルバー固定ボタン2箇所
- ② チューブ固定ボタン4箇所
- ③ クイックレバー2箇所
- ④ クイックシートピン1箇所
- ⑤ 固定ボタン

(クロスフレームが真っ直ぐで固定ボタンがロックされているか)

万一緩んでいる場合には、付属のプラスドライバーで締めてください。

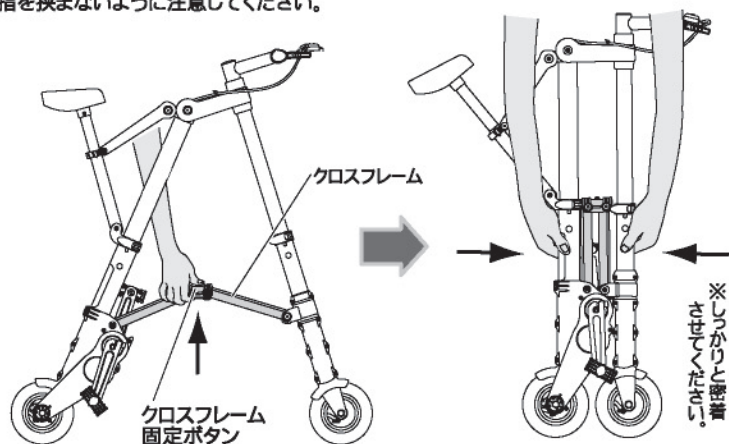
組み立て完了です

※ 体を後ろに反らして乗らないでください。バランスが不安定になり危険です。(少し前傾姿勢で乗ってください)

A-bike Plus の折りたたみ方

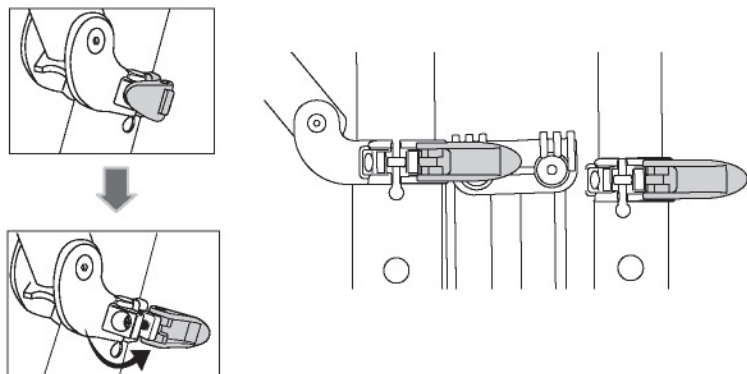
1. クロスフレームを折りたたむ

クロスフレームの中心にあるクロスフレーム固定ボタンを押しながら、ゆっくりとクロスフレームを持ち上げて折りたたんでください。
※指を挟まないように注意してください。



2. クイックレバー2箇所を解除する

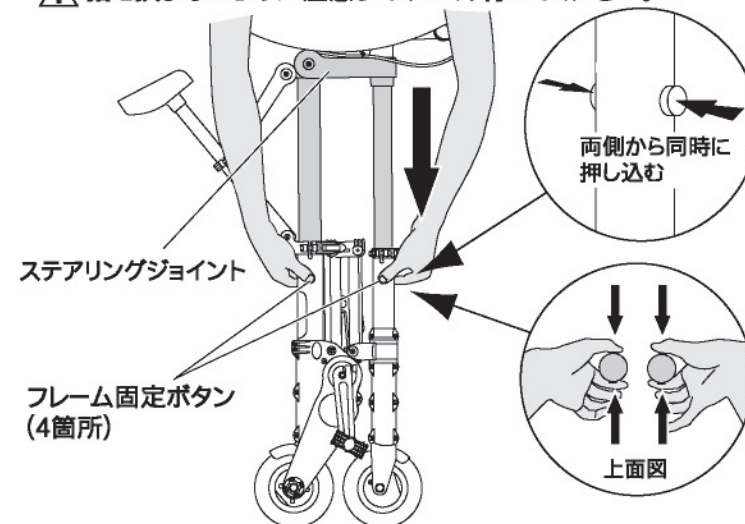
前後にあるクイックレバーを2箇所解除します。



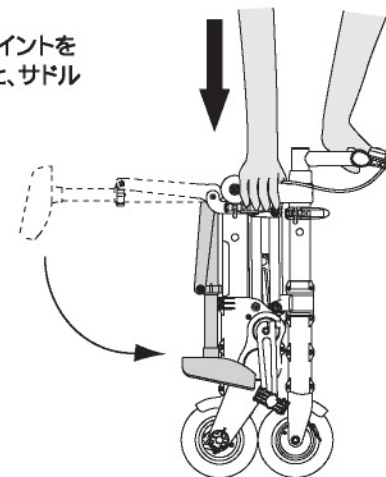
3. 4つのフレーム固定ボタンを押し込みながら、ステアリングジョイントを下げる。

※ 図のように両手で4つのフレーム固定ボタンを押し込みながら、ステアリングジョイントを上半身のあたりで少し押し込むとスライドが容易です。

⚠ 指を挟まないように注意してゆっくり行ってください。

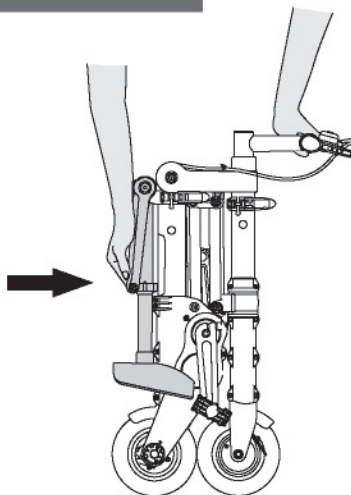


※ ステアリングジョイントを完全に押し込むと、サドルが下がります。



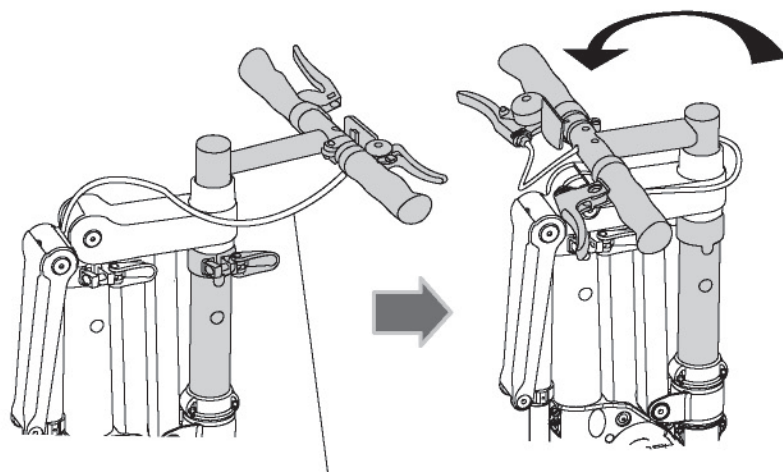
A-bike Plus の折りたたみ方 (続き)

4. サドルを手でしっかりと押し込む。



5. ハンドルバーを矢印の方向 (水平) に180°回転させます。

※ 逆に回したり、回しすぎたりするとハンドル破損の原因になります。



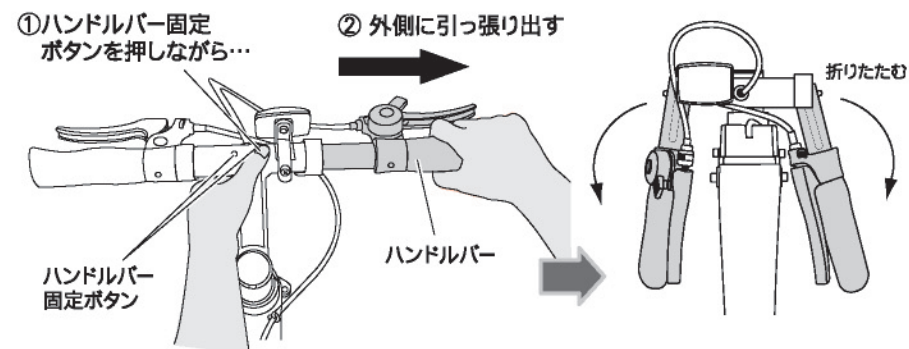
ブレーキワイヤが回っていない方向へ回します。

6. ハンドルバーを折りたたむ。

①ハンドルバー固定ボタン (右側のハンドルは右側のボタン) を押しながら、②ハンドルバーを外側に引っ張り出します。

※ 左右同時也可

反対側も同様に①②を行い、左右のハンドルバーを折りたたみます。

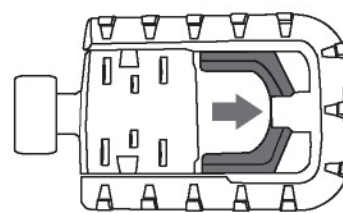


7. ペダルを折りたたむ。

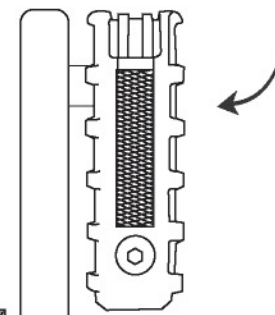
※ 指を挟まないように注意してください。

① ペダル中央部を外側に押し込みながら...

② たたみます。

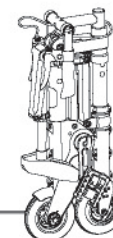


※ 上から見た図



※ 横から見た図

折りたたみ完了です



空気の入れ方

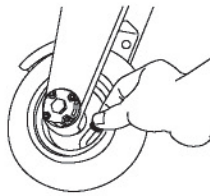
1

付属の空気ポンプ
を用意します。



2

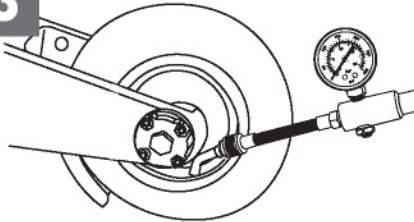
人差し指と親指でバルブキャップを外します。
(半時計回し)



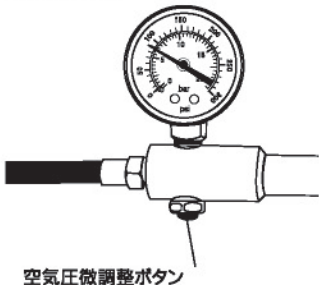
注意 無理にバルブを外側に向けるとチューブ
破損の原因になります。

3

エアポンプの先端(コネクタ)をバルブに
接続します。(時計回し)

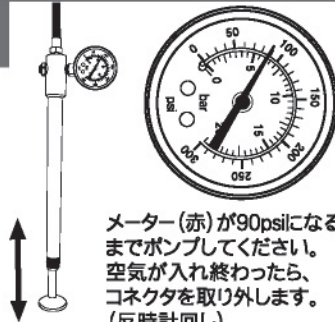


※ 90psi以上になってしまった場合は空気圧
微調整ボタンを押して、空気を抜き、調整
してください。



4

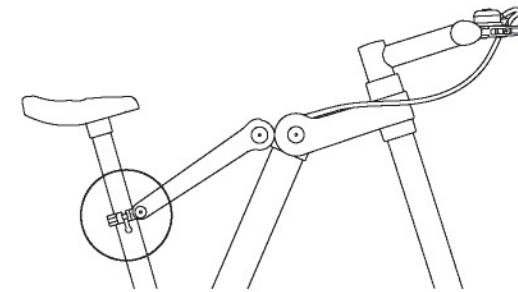
メーター(赤)が90psiになる
までポンプしてください。
空気が入れ終わったら、
コネクタを取り外します。
(反時計回し)



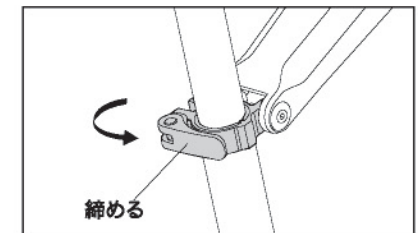
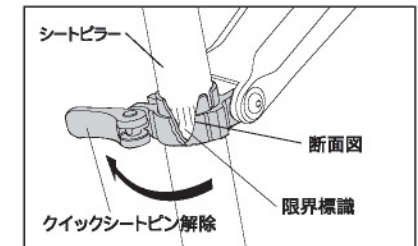
注意

ポンピングする際は、タイヤ側のバルブ
が激しく上下左右に動かないように行
ってください。バルブが破損する原因と
なります。

サドル位置の調整方法



- ① シートピラーを固定するクイックシートピンを
解除します。
- ② シートピラーを上へ引き上げサドルの位置を
調節します。この時シートピラーに刻印して
ある限界標識がクイックシートピンの固定
位置より必ず下側にあり、隠れた状態である
ことを確認してください。
- ③ サドルの高さが決まったら、サドルを進行方向
に向かって真正面の位置にし、クイックシート
ピンをしっかりと締めてサドルの位置を固定
します。



サドルの適切な位置

サドルに腰をおろし、両足先(足の長さの約3分の1)が同時に地面につく程度にします。初心
者の方はサドルに腰をおろしたとき、ひざを伸ばして両足のかかとが同時に地面にべったり
つくように調整してください。

クイックシートピンが緩いとき、またはきつ過ぎるときは、クイックシートピンを解除
した状態で、軸ボルトを調整してください。

日常点検(毎回の乗車前の確認事項)

車輪(前後車輪を確認する)-----

- ・車輪がしっかりと固定され、がたついたり、ずれたりしていないか。
(方法:車輪を地面から浮かし、タイヤを強くたたく。)
- ・振れ・ガタ・回転性
(方法:車輪を地面から浮かし、手で回してスムーズに回転し大きな振れやガタがないこと。)
※ 異音がする…ブレーキバンドが車輪にこすれていませんか?
- ・タイヤのキズ・磨耗
(確認:コードが見える深いキズがないこと。接地面の溝が十分残っていること。)
- ・空気圧(90psi)
(乗車前に毎回確認してください。)*17P参照

⚠ 注意

空気圧が少ないと、タイヤの接地面積が広がって走行抵抗が増えてペダリングが重くなります。タイヤの磨耗が激しくなり、パンクの原因になります。

ハンドル・サドル-----

- ・組み立てたとき、ハンドルが前輪に直角に固定されていること。
- ・折りたたみ部(接合部)が適正に確実にセットされていること。
- ・サドルが限界標識が隠れるまで差し込まれていること。
- ・サドル先端が車体の中心と合っていること。
- ・サドルにすわってブレーキやハンドルをムリなく操作できること。
※調整方法は18P参照

タイヤへの空気補充について

付属の専用空気ポンプを使用してください。(※17P参照)

- ・タイヤの空気圧を乗車前に確認してください。
(確認:適正は90psiです。)

ブレーキ(左右のブレーキを確認する)-----

- ・ブレーキのきき具合 ※調整方法は24ページ参照
(方法:レバーを引いてしっかりとブレーキがかかる、レバーの作動が重くないことを確認する。)
- ・レバーの固定
(方法:ブレーキレバー接続部等を指で押してズレ動かないこと。)
- ・ブレーキレバーを強く操作したとき、レバーとハンドルのにぎりとの間にすき間があることを確認すること。
- ・ワイヤにサビや切れがないこと。
- ・ブレーキバンドの丸い溝が1mm以上あること。1mmは交換時期の目安です。
(未使用で1.5mm~1.7mm)

ペダル-----

- ・ペダルにガタがなくスムーズに回転し、チェーンが外れないこと。
(方法:レバーを引いてしっかりとブレーキがかかること。レバーの作動が重くないこと。)
- ・クランクに変形やひび割れがないこと。
- ・ペダルリフレクタが汚れていたり、一部でも亀裂や破損がないこと。

リフレクタ・ベル・ランプ(別売)-----

- ・リフレクタ
(前後用、サイド用、ペダル用の確認:前からも後ろからもよく見えること
・レンズの汚れ・割れがないこと。)
- ・ベル
(確認:ベルがよく鳴ること。)
- ・ランプ(直径35mm以上対応)
(確認:明るく点灯し、10M前方の路面まで照らすこと。明るさが劣化した場合は充電または電池を交換する。)

各部のネジのゆるみ-----

- ・各部のネジのゆるみ
(方法:車輪を10cmほど高く持ち上げて軽く落としたとき、変な音がしないこと。)

お手入れと点検・調整

A-bike Plusを安全・快適に使用して頂くために適切なお手入れと定期的な点検・調整を行ってください。これらを行う事により自転車各部が正常に機能し、より安全に、そして長期間ご使用して頂く事ができます。

⚠ 注意

点検・調整を行う場合は適切な工具を使用してください。

点検・調整方法がわからない場合はお買い求めのお店へご相談ください。

タイヤへの空気補充について

付属の専用空気ポンプを使用してください。(※17P参照)

- ・**タイヤの空気圧を乗車前に確認してください。**
(確認:適正は90psiです。)

⚠ 注意

空気圧が少ないと、タイヤの接地面積が広がって走行抵抗が増えてペダリングが重くなります。タイヤの磨耗が激しくなり、パンクの原因になります。

洗浄について

泥、汗、及び積雪時の走行や海風による塩の付着は自転車の故障および損傷の原因となることがあります。定期的にお手入れをし、サビ止めをしてください。洗浄する際は、ホースやバケツを使ってゆっくり水をかけ、濡らした布で汚れをふき取ってください。洗浄の際に、タイヤの空気圧、ブレーキのきき具合、その他各部を点検し、破損や異常のある部分がないか確認してください。変形しているパーツは交換してください。

保管について

風通しが良く雨の当たらない乾燥した場所で保管して下さい。(0℃～40℃)
長期保管後に使用する場合は、必ず点検整備の上ご使用ください。

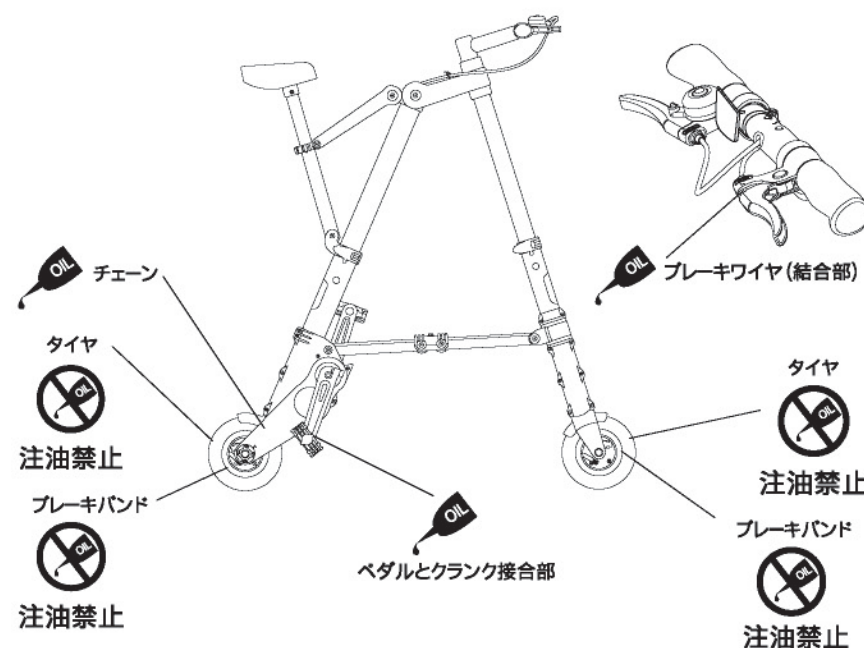
注油

6ヶ月毎に注油を行って下さい。

⚠ 警告 注油禁止箇所  このマークの箇所には絶対に「油」や「グリス」をつけないでください。



この記号の箇所に注油してください。(1～2ヶ月に1回程度)



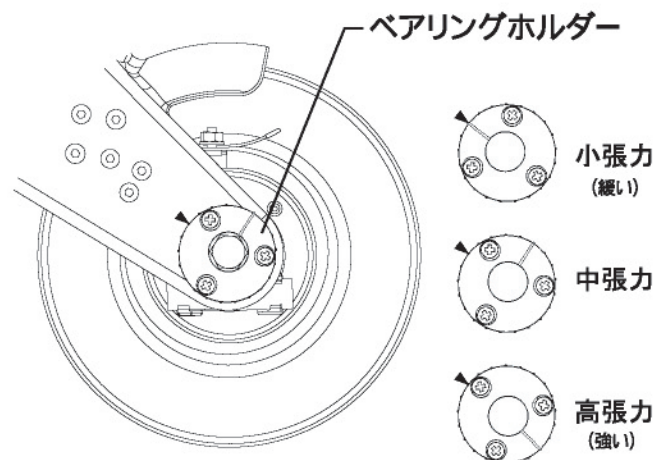
点検・調整時期

- 購入後2ヶ月以内に、販売店もしくは自転車店で点検を受けてください。
- 購入後1年及び異常を感じた場合は販売店もしくは自転車店で点検・調整を受けてください。

チェーンの張り具合について

チェーンはあらかじめ適切に調節がされています。
チェーンの交換が必要な場合は修理に出すか、A-bikePlus正規販売店へ持って行ってください。

自分で調整を行う場合は、ネジを緩めて両側のベアリングホルダーを同時に回して調節をしてください。



標準予備部品について

スペア品はA-bike Plus正規販売店にて購入してください。

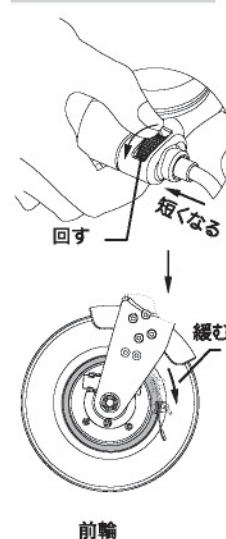
⚠ 注意

ブレーキの調整は必ず組み立てた状態で行ってください。
折りたたんだ状態では調整ができません。

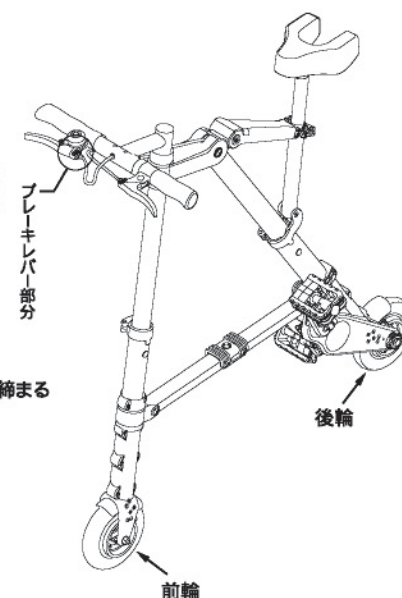
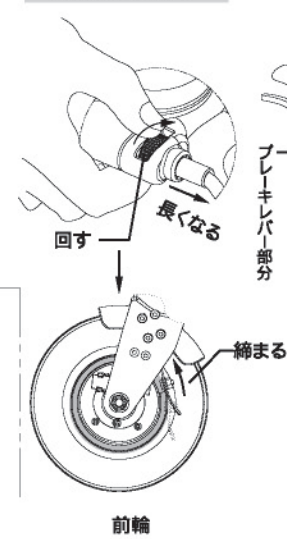
ブレーキワイヤの微調整をしてください(ブレーキレバー部分)

前輪…右ブレーキレバー側のダイヤルを回す
後輪…左ブレーキレバー側のダイヤルを回す

弱くする場合



強くする場合

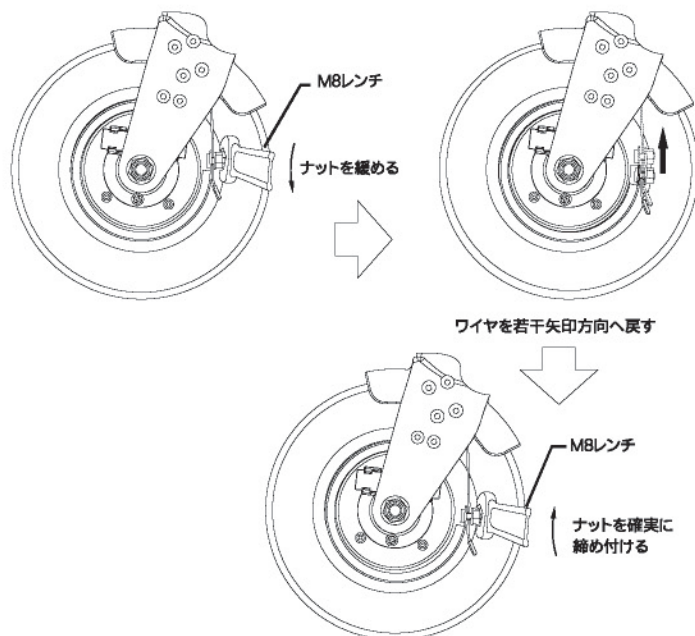


ブレーキレバー側のダイヤルで微調整してもブレーキが強すぎる場合
や緩すぎる場合は次ページへ。

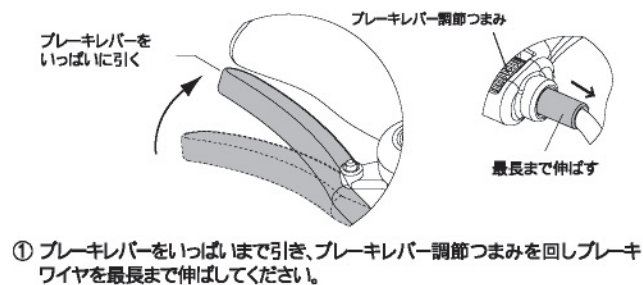
ブレーキの調整方法

ブレーキレバー側のダイヤルで微調整しても強すぎる場合や緩すぎる場合

ブレーキが強すぎる時（ブレーキ力を弱める場合）

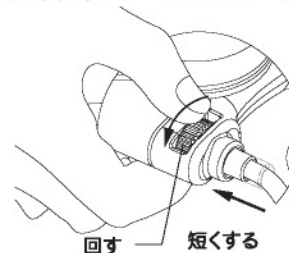


ブレーキが緩すぎる時（ブレーキ力を強める場合）

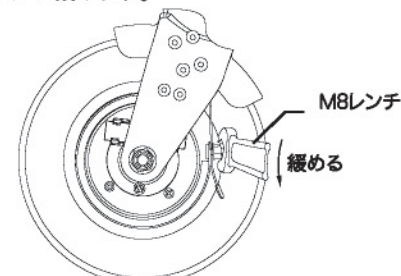


次ページへ

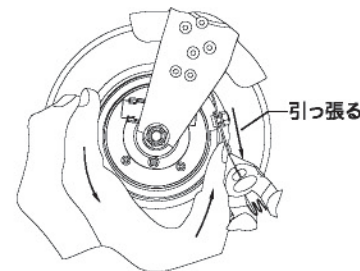
②ブレーキパレル調節つまみを回し、ブレーキパレルを一番短くしてください。



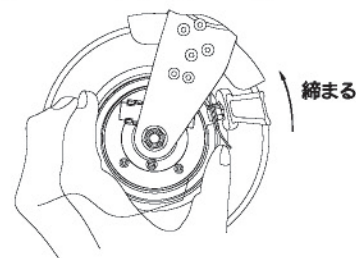
③M8ナットをレンチで緩めます。



④ ブレーキバンドを持ち、ペンチを使ってワイヤ端部を引っ張り出します。



⑤ ナットを確実に締めます。

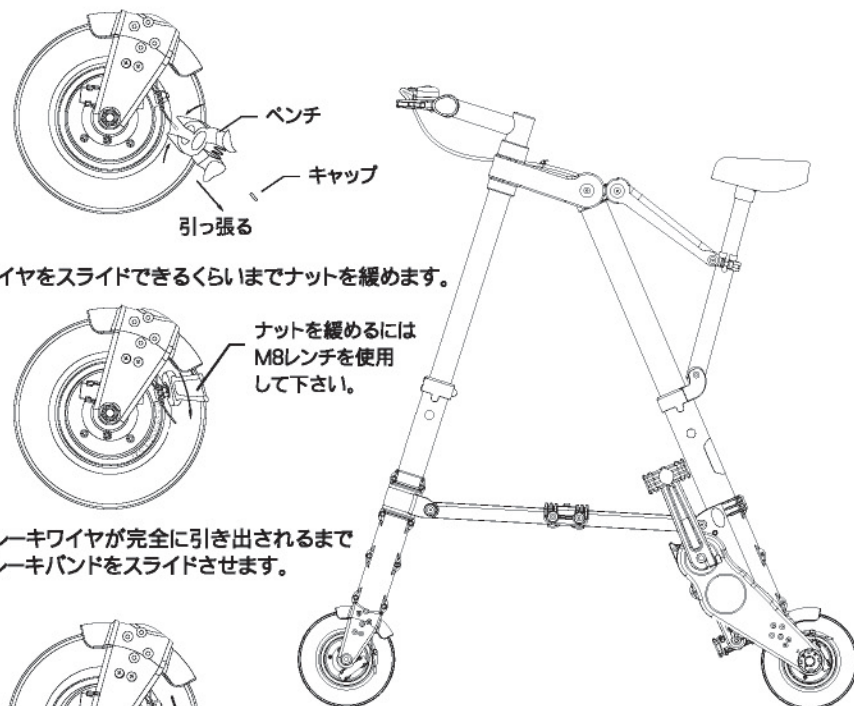


⚠ 注意

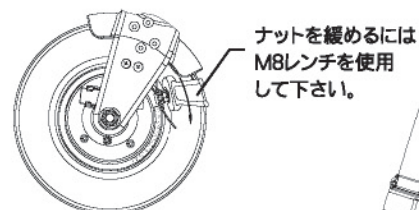
ナットを締める際、ブレーキバンドがタイヤに接触していると異音や故障の原因となります。

ブレーキバンドの交換方法

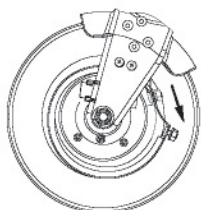
1. ペンチを使ってワイヤ末端部についているキャップを取り外します。(キャップは再利用できます)



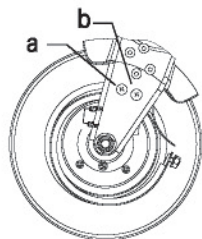
2. ワイヤをスライドできるくらいまでナットを緩めます。



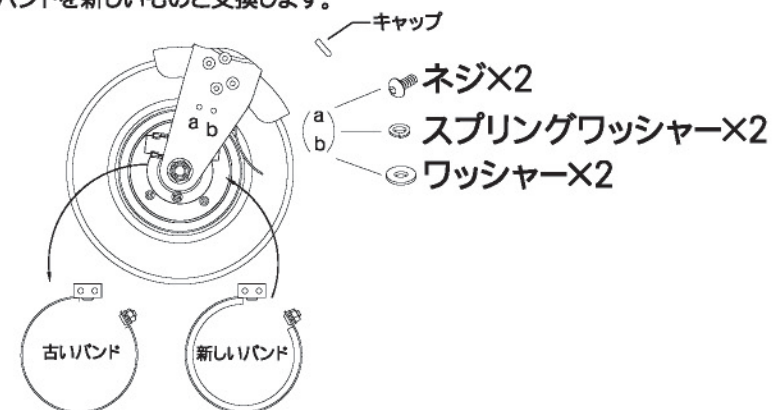
3. ブレーキワイヤが完全に引き出されるまでブレーキバンドをスライドさせます。



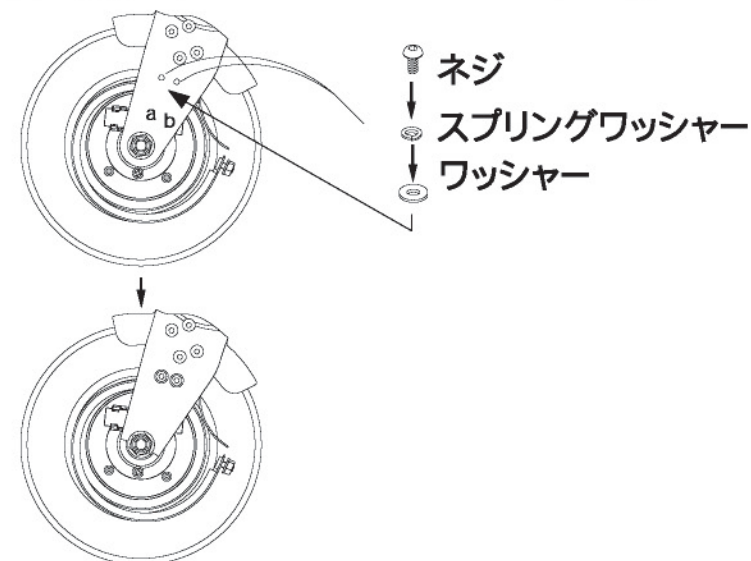
4. ネジaとbをプラスドライバーを使って取り外します。



5. 古いブレーキバンドを新しいものと交換します。

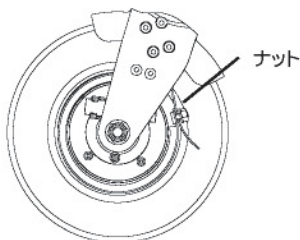
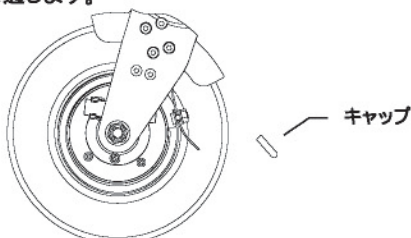
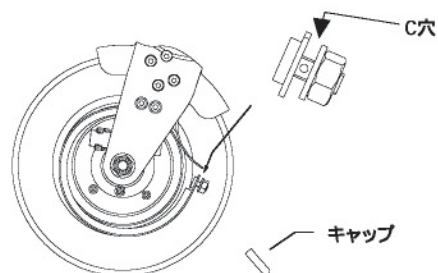


6. ネジaとbを取り付けます。図のようにスプリングワッシャーとワッシャーを通します。



ブレーキバンドの交換方法

7. 図のCの穴部分からブレーキワイヤを通します。

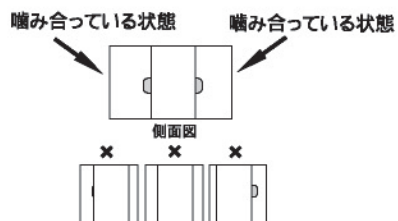


8. ナットを締める前にd及びeについて確認してください。

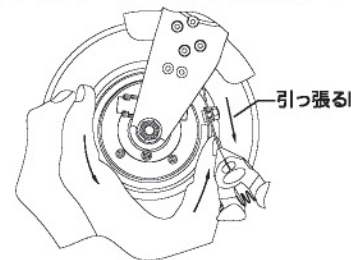
d. ブレーキパレルが一番短い状態になっているか



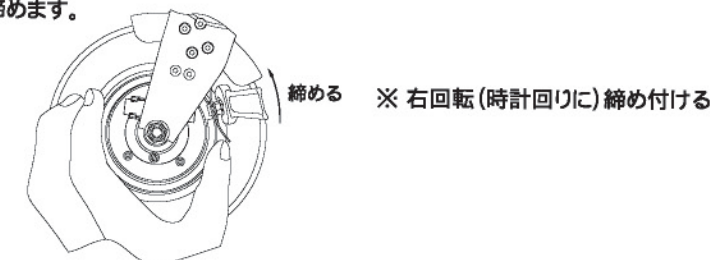
e. 図のようにフレーム固定ボタン (調整する方のタイヤのフレーム固定ボタン) が穴から出ているか



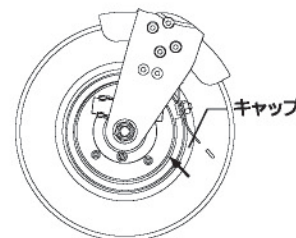
9. ブレーキバンドをブレーキパレルに巻きます。ペンチを使ってワイヤ端部を引っ張ります。



10. ナットを締めます。



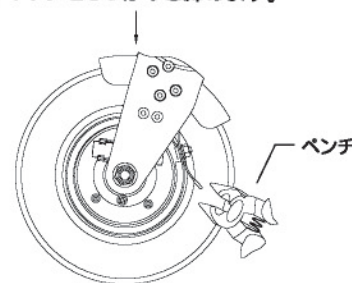
11. ワイヤ端部を保護するためにキャップを取り付けます。



13. 14Pの指示に従ってブレーキの調節をします。



12. ペンチを使ってキャップをしっかりと締めます。



パンクの修理方法(車輪の外し方)

※ よく理解できない方は、販売店かお近くの自転車店にご相談ください。

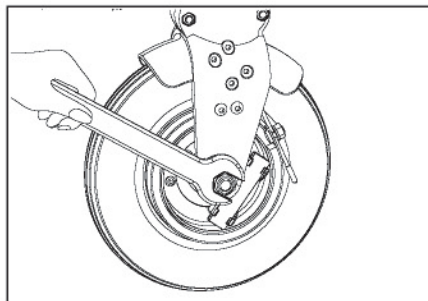
車輪の外し方

前輪

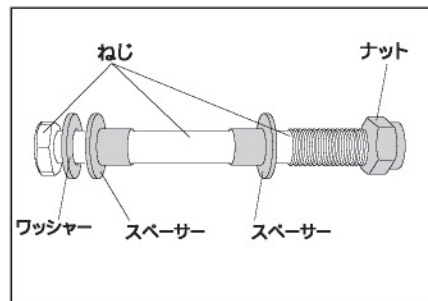
1. 前輪中央部のボルトを外します。

※左側のボルトを緩めてナットから外します。

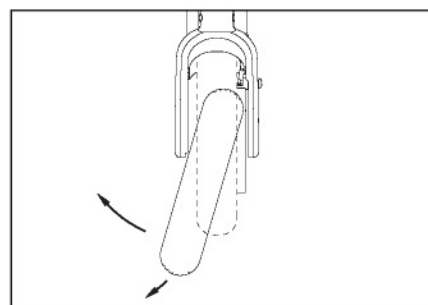
※ナット・ワッシャー・スペーサーを紛失しないように注意してください。



2. ボルトを引き抜きます。
(再度組み立てる時のために、スペーサーとワッシャーの取り付け位置の順番を覚えておいてください。)



3. 前輪をブレーキバンドから取り外します。

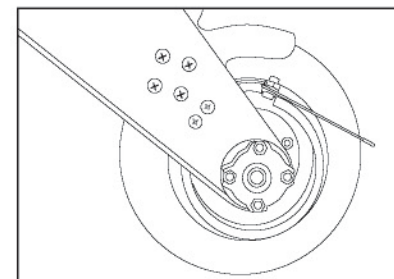


車輪の取り付けは、車輪取り外しの工程を逆から行ってください。

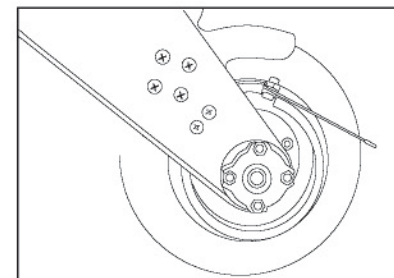
後輪

※ まずブレーキバンドを外し次に車輪を外します。

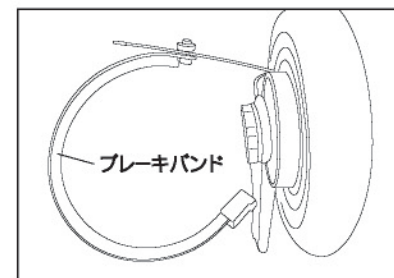
1. バイクを折りたたんだ状態にします。
(折りたたむことでブレーキワイヤを緩めます)



2. 左側のネジをプラスドライバーで2箇所外します。



3. ブレーキケーブルの緩みを利用してブレーキバンドをクランクケースから取り外します。この時ブレーキバンドからワイヤを外さないでください。

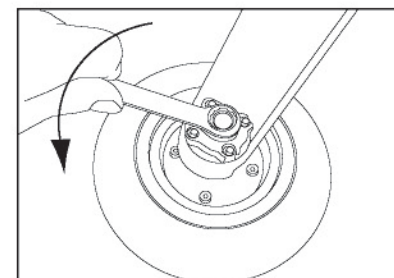


4. 後輪中心部のボルト(ブレーキバンドの反対側)を取り外します。

(組み立てた状態で進行方向に向かって)

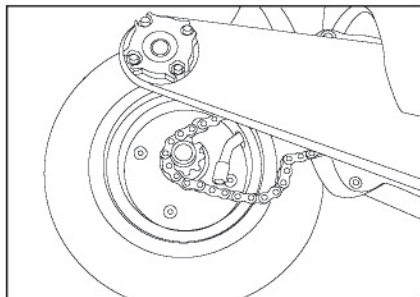
左側: 緩める場合→時計回し
締める場合→反時計回し

右側: 緩める場合→反時計回し
締める場合→時計回し



パンクの修理方法(車輪の外し方)

5. クランクケースを少し開き駆動輪部分を出します。チェーンを歯車から外して車輪を取り外します。



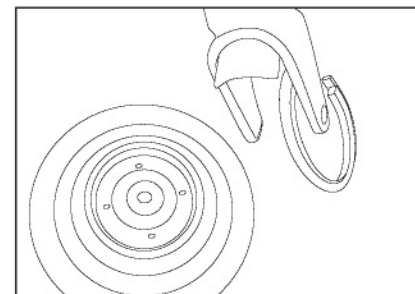
車輪の取り付けは、車輪取り外しの工程を逆から行ってください。

⚠ 警告

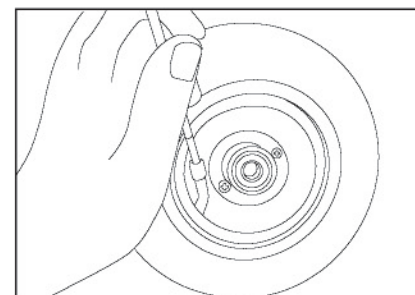
- ※ ブレーキバンドが車輪にしっかりと合い、ねじがきつく締まっているか確認してください。
- ※ 取り付けの際にワッシャーを取り付けるのを忘れないようご注意ください。

パンクの修理方法(タイヤ・チューブの交換)

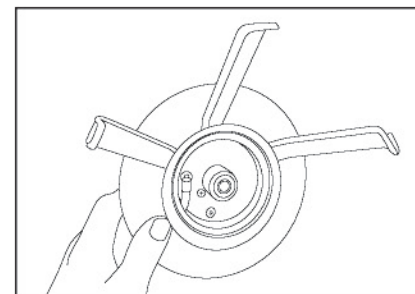
1. 31ページから33ページのステップに従って車輪を取り外してください。



2. バルブキャップをバルブ管から取り外し、バルブ管にピンを刺してタイヤに残っている空気を全て出します。



3. プラスチックのタイヤレバー(別売:取り扱いとは製造メーカーの指示に従ってください。)を使用してタイヤを取り外します。チューブをタイヤから取り外しパンク修理キット(別売:取り扱いとは製造メーカーの指示に従ってください。)を使ってパンクを修理するか、またはインナーチューブまたはタイヤを取り替えます。



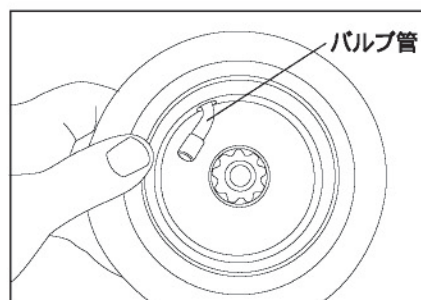
次ページへ

⚠ 警告

- ※ インナーチューブ、タイヤは必ずA-bike Plus純正品のみご使用ください。
- ※ 購入する場合はA-bikePlus正規販売店にお問い合わせください。

パンクの修理方法(タイヤ・チューブの交換)

重要:タイヤを組み立てる時は図のようにバルブ管が反時計回りに向くようにしてください。
空気は付属の専用空気ポンプで90psiまで入れてください。



⚠ 注意

A-bike Plusの車軸に合わないチューブを使用した場合、走行中にバルブが正常に作動しない恐れがあり、自転車が破損する事があります。A-bike plus専用のチューブのみを使用し、取り付け順序を必ず守ってください。

主な製品仕様

名 称	A-bike Plus (型式: DZB-03)
サ イ ズ	組立て時 : 約96(高さ)×約42(幅)×約88(長さ)cm 折りたたみ時: 約66(高さ)×約20(幅)×約30(長さ)cm
重 量	約6.0kg
ギア 比	14.8 : 35.9
最大荷重重量	85kg
GD	3.24m(ペダル1回転で進む距離)
高分子複合材料	30% GF PA66
アルミ素材	6061T6 熱処理
タイヤバルブ	シュレーダー(米式)
タイヤ空気圧	90PSI(約6.2kgf/cm ²)
タイヤサイズ	6x1 1/4インチ
付 属 品	・専用キャリーバッグ・専用空気ポンプ・専用工具キット ・クイックスタート(簡易説明書)・取扱説明書・製品保証書
最大サドル高	91cm
最小サドル高	80cm
製造国	中国
保証期間	お買い上げの日から6ヶ月

※仕様・及び外観は予告なく変更することがありますのでご了承ください。

A-bike輸入総発売元

大作商事株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルタワー12F

TEL : 03-3539-4000 FAX : 03-3539-4100

www.daisaku-shoji.co.jp

フリーダイヤル

 **A-bike サポートセンター 0120-060-819**
(土日・祝日を除く平日 月～金 9:00～17:00)

www.Abike-uk.com

A-bike オフィシャルウェブサイト

A-bike®
www.Abike-uk.com plus



A-bike輸入総発売元

大作商事株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルタワー12F

TEL : 03-3539-4000 FAX : 03-3539-4100

www.daisaku-shoji.co.jp

フリーダイヤル
A-bike サポートセンター 0120-060-819
(土日・祝日を除く平日 月～金 9:00～17:00)

www.Abike-uk.com
A-bike オフィシャルウェブサイト